

松と庭園の寺



準別格本山

宝壺山

願勝寺



願勝寺のはじまり

当寺は阿波八門首の一寺にして、草創は遠く

忌部五十麿祖父岩木の宿称菩提の為阿波上郡に寺を建立し、方壺山維摩寺と号す。

平安時代藤原信西入道の娘に阿波内侍と云う女性あり。

母は麻植忌部忠光の娘なり。内侍崇徳天皇に仕へて寵あり、

たまたま第七十七代後白河天皇の御代保元の乱(二五六)起り、

崇徳上皇の軍破れ、讃岐に遷り給ひ、其の地に崩御遊さる。

阿波内侍此れを聞き悲嘆に堪えず、入道して比丘尼となり

館を改め寺となし、新院崇徳上皇の御冥福を祈る。

此れ京師の願勝寺なり。

憚かる所あつて内侍尼了海上人に托し寺を母の生国阿波に移し、維摩寺を改め願勝寺とし、伽藍を整備せしむ。

内侍尼白峰の御陵を拜し、当寺に留錫朝夕新院の御冥福を祈り、老後京都安井に皈り余生を送りたりと。

鎌倉時代、守護職小笠原長房三十貫寄進、細川三好家の祈願所となり、蜂須賀家人国の節、

方八町御免地、稲田家二十石寄進、郡中出家取締りを仰せつけらる。寺宝には、県指定文化財を始め数十点の文化財がある。

〔本尊〕阿弥陀三尊

〔三詠歌〕よそはちの ほとけのちかい がんしょうじ
まつふくかぜも みのりとぞしれ

昭和35年高野山三宝院全弘大僧正開基、参拝者の現当二世安楽の為建立いたしたものを。

四国霊場
砂踏み所



美馬市立
郷土博物館

昭和32年10月、県下最初の博物館として開館された。国指定史蹟「段の塚穴」の出土品、県指定の経塚の出土品、四国最古の廃立光寺の古瓦など、郷土出土品をはじめ、仏教考古品、美術工芸品、古文書等を陳列している。



願勝寺
山門

山門は明治末期の建立で、国の登録有形文化財に指定されており、正面に唐草文様の彫刻がほどこされ、左右に2基の仁王像が祭られている。



正五位
君田翁

君田翁は願勝寺第44世の住職にして、勲王の志厚く高杉晋作・坂本龍馬・日柳燕石等と親交国事に奔走中捕われ、鉄窓に伸吟、戊辰の春出獄、明治7年(1874)63才にて逝く、明治36年正五位を贈らる。書画詩歌を能す。中興阿波内侍・皇子・姫御霊の供養の為の塔3基。



県指定名勝 四国最古願勝寺庭園

四国最古
枯山水庭園

願勝寺庭園は、鎌倉時代(約六百年前)の池泉式枯山水の庭園で、文化史上中央との交流を示すものと考えられるものである。岩を組んだ「岩組み」はかの有名な京都天竜寺の庭「鎌倉時代中国の禅僧・蘭溪道隆禅師の作庭」の岩組と同一手法で全国に散在する五つの滝の一つである。枯滝は中段の瀑布岩組と上段に小さいのと二段築である。中段の滝は水落岩に大きな板石を立て滝添石を用い、皆阿波の青石である。滝の上と下に二つの白石があるが、これは鯉をあらわした石で、中国竜門の滝を模し、この鯉が滝を昇れば竜と化し、昇天する瞬間を表現している。向って右側の岩組、三尊石の立方等一般の配石、岩組に鋭い線が出ている。併し滝の左側、頂上等は後世の修理によって、昔の面影を失っている。

この庭園は、昭和三十三年(一九五八)。徳島鈴江弥太郎氏により発見され、京都林泉協会々長重森三玲先生により全国にその価値が紹介され、文部省は、昭和四十一年、科学研究費補助金として、大阪美術館佐々木利三氏に対し、当庭園実測調査費を交付、同年秋実測を終る。



県指定有形文化財 絹本着色聖衆来迎図



願勝寺 境内



真言宗御室派
準別格本山

宝壺山 願勝寺

〒771-2105

徳島県美馬市美馬町願勝寺8

Tel. 0883-63-2118